

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通事業論	交通事業・交通システムの 今を深く理解する	藤井 大輔	1 年次後期
講義の目的	私たちの日常生活に関わる交通事業は、鉄道・バス・タクシー・航空・船舶とさまざまな形で供給されている。これらの交通事業や交通システムについて、これらの置かれた経営環境などの背景を含めて、現状がどうなのか、鉄道・バス・タクシー・航空・船舶、輸送形態ごとに事業を概観する。この講義を通じて、交通事業への理解を深め、交通に関する基礎的な専門的知識を習得することを目的とする。		
到達目標	鉄道に限らず、わが国の交通事業全般について、これらの現状に対する理解を深める。		
講義内容	鉄道やバス、タクシー、航空、船舶とさまざまな交通モードで供給されている交通事業について、これらのモード別に現状をひもといていく。そして、交通政策に関わる整備新幹線と並行在来線の枠組みや、軌陸両用車 (DMV)、ライトレール (LRT)、バス高速輸送システム (BRT) など比較的新しい交通システムについても解説し、これからの交通事業が今後、どう展開されていくのかを考える。		
講義スケジュール	第 1 講	交通とは何か	
	第 2 講	旅客・貨物交通の特性	
	第 3 講	交通事業者の経営形態と公的関与	
	第 4 講	交通事業の現状 (1) : 幹線鉄道旅客輸送事業	
	第 5 講	交通事業の現状 (2) : 都市圏鉄道旅客輸送事業	
	第 6 講	交通事業の現状 (3) : 都市間バス輸送事業	
	第 7 講	交通事業の現状 (4) : 国内線航空旅客輸送事業	
	第 8 講	交通事業の現状 (5) : 鉄道貨物輸送事業	
	第 9 講	交通事業の現状 (6) : トラック貨物輸送事業	
	第 10 講	交通事業の現状 (7) : 国内線航空貨物輸送事業	
	第 11 講	交通事業の現状 (8) : 内航海運輸送事業	
	第 12 講	新しい交通事業システム (1) : リニア・LRT	
	第 13 講	新しい交通事業システム (2) : バス高速輸送システム (BRT) ・自動運転自動車	
	第 14 講	自家用福祉有償運送	
	第 15 講	まとめ : これからの交通事業	
方法指導	本試験だけでなく、課題レポートも課して、交通事業について理解を深めていく。		
授業外 学習	初回を除いて、講義終了前に次回の予告を説明するので、その予告に基づいて、参考書に挙げた書籍などで未習の用語などを理解しておくことを事前学習とする。また、事後学習は、講義で取り上げた事例以外の事例について自分で調べ、まとめることを通じて、より交通事業への理解を深めていく。		
成績評価 方法	本試験 (筆記試験) 60%、平常点 (レポート) 40%、計 100% で成績評価する。		
ステキ	使用しない。毎回、レジュメ (プリント) を配布する。このレジュメはファイルに綴じておくのが望ましい。		
書籍 参考	日本交通学会編、『交通経済ハンドブック』、白桃書房、2011 年。竹内健蔵、『交通経済学入門』 (新版)、有斐閣、2018 年。藤井彌太郎監修・中条潮・太田和博編、『自由化時代の交通政策 現代交通政策 2』、東京大学出版会、2001 年。		
事項 特記	1 年次前期に「交通概論 A」の単位を取得しているか、1 年次後期に「交通概論 B」を履修しているのが望ましい。ただし、これら科目の履修をこの科目履修の条件としない。		